

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で学習会を行い、職員は理念を共有できており、理念に沿ったケアに努めている。	開所時に地域密着型サービスの意義や役割を考えながら、職員全体で話し合いを持ち事業所としての理念を作り上げ管理者と職員は共有し、日々の中でも話し合いながらサービス向上に活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の避難訓練や児童館での季節行事、保育園の行事、地域の祭り、花見(桜)に参加したり、作品展にゆうなぎの作品を展示している。地区の菊花展、写真展に電話が入り出掛ける事もある。	町内会に加入し、地区の避難訓練にも参加するなど、地域の方々と気軽に挨拶を交わし合っており、日常的にさまざまな差し入れももらうなど交流を深めている。また、児童館での季節行事や保育園の行事、地域行事の際には声をかけてもらい、共に楽しませてもらうなど、地域の一員として日常的に交流が図られており、利用者の生き生きとした表情を窺うことができた。地域の一員として、散歩を兼ねて事業所周辺のゴミ拾いを行ったりもしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	講師を招いての学習会、救急法やボランティア来所時(歌、踊り、演奏会)行事に地域の人に声をかけて、参加して頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	身体拘束の事例の有無、研修の報告を行い、意見を頂いている。民生委員協議会の皆さんが見学に来られたり、地域の方がゆうなぎに見学に来所したりしている。	運営推進会議は地域の理解と支援を得るために多くの方より参加していただき定期的に開催している。会議では状況報告やサービスの実際について報告し、意見をもらい双方向的な会議となるよう心がけている。議事録については職員全員で共有し、確認できた意見を一つ一つ積み上げサービス向上に活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所内に居宅介護支援事業所、デイサービスセンターがあり市役所担当者や包括支援センターの職員の出入りがあり、質問、相談し、助言を頂いたりする関係性ができている。	市担当職員や包括支援センター職員との積極的な連携が構築されており、運営推進会議のみならず日頃から何でも相談出来る間柄にある。また介護保険の更新時には本人と共に区役所へ申請に行くなど、良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会があり事業所全体で学習会を行いながら、身体拘束ゼロを心がけている。玄関や非常口、ベランダを自由に出入りしている。	身体拘束廃止委員会が研修についてを立案し、職員全体で身体拘束について学び、具体的な行為について理解を深めるよう努めている。利用者一人ひとりの状態や気分をキャッチしながら安全面に配慮し、自由な暮らしを支えるようにしている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待防止、委員会を設置している。毎月チーム会議や日頃から気づいた事、不適切なケアを行っていないか職員間で意見交換を行っている。	身体拘束防止同様に各研修会や勉強会で職員全員が学び理解を深めている。入浴時やトイレ利用時にはさりげなく全身の観察を行い、虐待が見過ごされることがないように注意を払っている。また管理者は職員の疲労が蓄積されることがないように、様子を観ながら声をかけたり、何でも相談してもらえる雰囲気づくりに配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護にかかわる研修に参加している。今現在制度の活用性がある方はいないが、家族に制度のことについて質問されたときには助言している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はわかりやすく説明すると共に、一方的な説明にならないよう、質問が出やすいように配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、反映させている。	家族の面会時には、近況報告をすると共に、話しやすい関係作りに努め、その場で意見や要望を聞いている。年2回の家族会で家族との交流を図り、意見交換の場としている。	年2回家族会を開催し、内容を問わず様々な話を聞けるように配慮している。この機会は職員にとって家族から忌憚のない意見が聞かれる大切なものとなっている。また、家族会による積極的な清掃活動が行われるなど、温かな配慮に感謝している。訪問日も利用者、家族、職員が共に会話を持ちながら食事を摂り、和やかな雰囲気の中で聞かれる意見や要望を会議の中で話し合わせられ運営に反映させていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のチーム会議に話せる機会がある。日々のミーティングの他にも意見交換ができており、運営に反映されている。	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを図るよう心がけ、大事な決定ごとに関しても職員全体でのミーティングの中で、意見や提案を聞く体制を整えており、相談しながら運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力、実績、勤務状況を把握するよう努めていると共に、それを評価できるように声をかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は個人的に受講する意欲があれば参加できるようにしている。職場内の研修会は職員の力量や経験を踏まえてその時に必要な内容で行うように指導できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区内にある事業所と連携し、研修などで意見交換できる場がある為参加している。又市内のグループホームと交流があり市内に買い物に出掛けた際にお茶を頂いて談話する関係ができている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人情報を家族から聴き取るだけでなく、本人との会話を多く持ち、不安にならないように努めている。入居や契約前に事前に訪問し、地域の中での本人や生活習慣を把握できるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学に来られた時、入居申し込みをされる時から話ができる雰囲気作りを大切にしている。要望や意見なども話して頂けるよう入居者、家族との関係を大切にしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時や見学の段階で他のサービスや支援を必要としている場合は助言させてもらっている。優先させるべきサービスがあると思われる場合には、担当ケアマネと連携し検討するようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を生活のパートナーとして過ごし、調理や畑仕事など生活の中のさまざまな場面で職員が学ばせてもらっている事に感謝し、共に生活を楽しむ関係を築いている。			
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族に近況報告し、会話を多く持つように努めている。本人家族の、関係性にも留意しながら共に支えていけるように家族からの意見を大切にしている。又家族も外出外泊など協力して頂いている。	面会時には何でも話しやすい雰囲気づくりに努め、利用者の日々の暮らしの様子を伝えられている。また、事業所の広報でも行事に参加し楽しんでいる利用者の様子もみてもらうなど、日頃の様子や気づきの情報を共有している。また、外出、外泊協力もあり、共に本人を支える姿勢で考えていける自然な関係性を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容室、地元のお祭などの外出支援や家族から得た情報で大切にしてきた関係の方や場所とのつながりを支援するように努めている。面会に来られた方との過ごしやすい雰囲気作りにも配慮している。	家族、親戚、友人の面会時はゆっくり居室で過ごしてもらえるよう配慮している。また、馴染みの美容院や商店への買物や外食に家族と共に出かけこともあり、継続的な交流が途切れないよう支援に努めている。特に美容院利用の折には多くの同級生を呼び寄せて下さり、そこでお茶会を開いてもらったりと心の通い合う時間を過ごすことができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の席配置や気の合う方同士で談話できるベンチ、ソファも設置している。性格や、個々の気分によってもかかわり方が違うので良い関係が継続できるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された家族との関係も良好で、季節の行事参加を呼びかけたり、気軽に来所できる関係にある。ゆうなぎに花、野菜を届けて下さったり、ゆうなぎでお茶をして過ごしてもらったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画書作成時には必ず本人の意向を確認している。本人が困難な場合には家族に確認し、職員で話しあい、日々のケアの中で思いをくみ取り、本人の立場に立った視点で検討している。	センター方式のアセスメント票を活用し、入居時に本人や家族から思いや希望を伺っている。入居後は日々の暮らしの中から思いの把握に努め、困難な場合でも表情から汲み取るなどしながらミーティング時に情報を共有し、サービスに反映させている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インタビューを取る際にできる限りの情報を聴き取りし、これまでの本人の生活歴を把握できるように努めている。センター方式のシートも取り入れて、会話の中から得た情報を常に書き入れている。	アセスメント票から得られた情報や前事業者からの情報を得るとともに、利用者同士の何気ない会話の中からも生活歴や馴染みの暮らし方について聞かれたことを、センター方式のアセスメント票に加筆し、職員間で共有している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身の状態を把握し、調理、その他の活動に参加できるよう環境を整えて声をかけている。日々の変化や気分の状態、気づきなども申し送り情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書作成時には本人、家族、チームでの話し合いを行い、現状に即した内容であるようにモニタリングも週単位で行っている。日々のミーティングで意見交換し、反映されている。	3ヶ月毎にモニタリングを行い目標の達成状況を確認し、変化があれば本人、家族、職員間で話し合いながら利用者の暮らしを反映した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添った個々の実践記録に記入している。又職員間のミーティングや共有連絡ノートを活用し情報の共有に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応じて、外出支援や地域の方、なじみの方との交流が図れるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握と共に、その方にとって地域の中での暮らしを楽しめるよう、自宅に外出支援するなど協働するよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医に移行を希望される方については、情報提供を事前に提出し、不安にならないように対応し受診は家族と職員で交互にしている。職員で受診した時には、状況を家族に報告し経過を記録に残している。	かかりつけ医の継続や事業所の協力医への移行は自由であり、希望する病院へ受診できるよう支援している。受診時は基本的に家族付き添いとなっているが、困難な場合や緊急時は職員が同行している。医師への情報提供は事前に行い、受診結果は家族に確認し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内の看護師に気づきや対応の仕方を相談し助言を頂いている。急変時には、連携し、支援できる体制にある。協力医の看護師との関係も良好で相談し、助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった際には、口頭での説明ではなく、書面でも本人の情報を送り、医療機関と情報交換を行っている。家族が不安にならないように説明し、家族の代弁が必要なお伝えするように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期における対応について施設の方針は入居の契約時に説明し同意を得ている。事業所として対応できる部分とそうでない部分見極め方針を決定できるよう必要時は家族やかかりつけ医とも相談している。	契約時に重度化した場合の支援のあり方や事業所の対応についてを説明し、医療が必要になった場合や重度化した場合は事業所でできる限りの支援に努め、家族、医療機関、他施設と連携相談を繰り返しながら対応支援している。	今後は終末期に対する勉強会を行う機会を設け、指針等を構築し職員間での理解を一層深めていかれることを期待したい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習委員会が主催し、緊急時、急変時の対応について学習会を行っている。又消防署や警察の方に協力して頂き、消火訓練や、交通安全指導を開催している。	事業所職員は適切な初期対応ができるように緊急時のマニュアルを作成し周知している。他、緊急時や急変時の対応について学習会も行っている。また、消防署の救命救急法の研修会に参加し、実践力を身に付けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	津波、地震、火災などを想定し訓練している。職員で緊急連絡訓練も行い災害時の対応を周知徹底している。近隣の方に災害時の協力要請をしてあり協力体制がとれている。	消防署、地域の方にも参加してもらい、火災、津波、地震を想定した避難訓練を行い、状況に応じた対応ができるようにしている。また備蓄の備えも充実しており、災害時への備えは出来ている。緊急時の連絡網や避難マニュアルも作成されている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、排泄、入浴の声かけや羞恥心に配慮している。その人に合わせた援助を行っている。情報の取り扱いについても家族にも説明し、プライバシー確保に努めている。	入所時に個人情報の取り扱いについてを説明している。本人の気持ちを大切に考えながら人格を尊重した言葉かけを心がけている。トイレへの誘導、入浴の際は特にさりげない誘導に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で個々に思い思いの話しができるように声かけや寄り添う対応を心がけている。全員が同じではなく、個々の気持ちや気分によって声かけを変えて、時間がかかっても自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合にならないように、利用者のペースに合わせゆっくり過ごして頂けるように努めている。本人の希望があれば、個別に対応できるように職員間で協力体制ができています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院に行ったり、衣類の購入に出かけている。衣類の選択ができるように本人の意見を大切にし更衣の支援を行っている。好みの日用品の購入ができるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員が入居者と協力して行っている。個々の能力、好みに合わせた作業ができるよう支援している。献立に季節料理、郷土料理、旬の食材を取り入れている。	食事献立は地域の方の差し入れの食材や季節料理など、利用者の希望も考慮して柔軟に立てている。食材カットや盛り付け、配膳、下膳、食器拭きなど、それぞれの力を発揮して職員と一緒にしている。また、職員も同じテーブルに付き、共に食事を摂っている。また、利用者の希望により外食に出かけることもあり気分を変えての食事楽しいものとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、を考慮したメニュー作りをしている。自分で摂取できない方や食事量にムラがある方、バランスよく摂取できない方には声をかけたり、必要な介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの支援をしている。個々の状態にあわせ見守りや介助を行っている。口腔内に異常がある際は歯科への通院援助も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の状態観察の中から、排泄の時間帯を察し声がけ誘導を行って。定時に誘導する方、その方に合わせた支援を行っている。	利用者の行動や表情を見ながら一人ひとりの排泄パターンを把握して、さり気ない言葉かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。また プライバシーや羞恥心には十分な配慮をして排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、個々に応じた対応をしている。本人の好まれる飲料で水分補給をしたり、毎日排便チェックをおこなっており、内服のある方には、医師に相談したり、状態の報告をし手いる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が楽しめるように、親しい人と一緒に入ったり、談話を楽しんだり、一人でゆっくりと入りたい方、歌いたい方、その人に応じた対応をしている。汗をかいたり、失禁した場合随時入浴して頂いている。	職員は利用者の思いを聞きながら週2回以上を基本とし入浴支援をしている。入浴中は歌を歌う人静かに入る人等利用者の個々に合わせた対応でゆっくり入浴してもらっている。支援の際は個々の心身の状態を把握し気分転換を図り、清潔が保たれるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を大切にしており、消灯の時間を問わず、対応している。又午睡の習慣のない方や体調や気分によっても休まれる場所が変わる方についてもその時々によって対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服一覧表があり全員の内服薬の目的、副作用について把握しており、服薬支援を行っている。又状態の変化時医師に報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や力を発揮するよう努めながら、生活の中で、の役割や趣味の継続ができるように支援している。気分転換になる事も個々に把握し、対応できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の言葉に耳を傾け希望にそえるように支援している。山菜取り、自宅、山、地域のお祭、浜辺、公園に出掛けたり、なじみの美容院に行く時には、同級生に集ってもらい、お茶会をしたり談話の機会を持ちたり、地域の人の協力も得られている。	天候のよい時は日常的に近所に散歩に出かけている。利用者の希望があれば近くのスーパー等買い物に出かけている。四季折々の地域の行事、山菜採り、花見、あじさい見学、公園など利用者の希望を聞きながら支援している。家族による外出、外食、外泊の支援も行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はリスクばかりにとらわれずに買い物に出掛ける時には、個々の能力に合わせて財布を持って頂いたり、支払ってもらふ事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングの公衆電話をかける人に対し、番号を読み上げたり、小銭を入れたりの支援をしている。手紙、はがきを書いた人には切手を買って出掛けたり、ポストに投函できるように付き添う支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を知らせる飾り、利用者が作ったパッチワーク・リースなどを飾ってある。居間に畳の空間、リビングにはソファ、ベンチがあり、入居者同士気軽に話したり、くつろいだり、横になったりできる。自由にベランダに出て日光浴を楽しんでいる。	日中はほとんどの利用者がリビングで過ごしている。利用者の集まるリビングは行事の写真や利用者の作品も飾られ、常に清潔を心掛け掃除の行き届いた空間を保てるように努めている。利用者がくつろげる畳スペースもあり廊下は広く障がいとなる物はなく目が届きやすくなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人の居室を訪問したり、自分の気に入った場所で談話したり、居間で枕、肌掛けを出して横になったり、縫い物をしたり思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の思いや希望に合わせて、馴染みの家具装飾品、日用品、裁縫道具、遺影、家族写真を飾ったりしている。	入所時に使い慣れた家具、日用品、家族の写真等を持参してもらい居心地よく過ごせるように配慮し、利用者が安心して生活できる環境づくりを心がけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施錠は夜のみで、居室の戸や窓は開放してある。エアコンの操作は本人の能力に合わせて説明し操作して頂いている。職員はリスクばかり考えるのではなく本人のできる事に目を向け支援している。		